

Taiwan Bar Association の訪日交流

国際交流委員会 台湾 P T

交流の経緯（新生 TWBA としての初来日）

2024年5月17日、台湾の弁護士連合組織である Taiwan Bar Association（以下「TWBA」といいます。）の訪問団が来日し、日弁連との交流を行いました。

日弁連と TWBA の交流は 2017 年 9 月の仲裁・紛争解決セミナーの共同開催（会場：弁護士会館）に始まります。当時、TWBA は地方弁護士会の連合体（律師公会全国連合会）でした。その後、2021 年 1 月に台湾の弁護士法（律師法）が改正され、TWBA は、弁護士会の連合体から、会員個人も会員となる全国律師連合会として新たなスタートを切りました。

新しい台湾の弁護士会制度が日本の制度に近いものであったこともあり、日弁連は、台湾の弁護士法（律師法）改正の議論の段階から、弁護士会運営にあたって必要な様々な資料等の提供を行いました。コロナ禍の渡航制限によって直接の訪問交流が難しくなる中、2021 年 2 月には、TWBA に日弁連の制度的な経験等を伝えるオンライン意見交換会を実施しました。さらに、2022 年 12 月には、オンライン交流会を開催しました。

そして、2023 年 6 月、当委員会が渡航制限緩和後に最初に実施した直接訪問交流として、台北（及び台南）への TWBA 訪問が実施されました。

今回の TWBA の日弁連訪問は、こうした流れを踏まえて、両会の相互交流を更に深めるものとして企画、実施されたものです。

参議院議員会館での意見交換会①：男女共同参画

5 月 17 日の午前中は、参議院議員会館の国際会議室にて、両会の意見交換会が開催されました。冒頭には、牧山ひろえ議員からのご挨拶をいただきました。

その後、淵上玲子日弁連会長と尤美女（ヨウメイニュー）TWBA 理事長とが相互に挨拶し、懇談を行いました。両会とも女性が会長となったタイミングでの交流は、男女共同参画という意味でも意義深いものであったと言えます。

続いて行われた意見交換会の前半では、男女共同参画の問題が取り上げられ、両会による報告と意見交換が行われました。TWBA からは許美麗（シューメイリー）律師（TWBA テクノロジー法委員会委員）、日弁連男女共同参画推進本部からは小川恭子弁護士、杉田明子弁護士、三浦桂子弁護士、原田直子弁護士が、それぞれの男女共同参画の現状等について報告しました。

TWBA 側の報告の中で、特に日弁連側参加者の印象に残ったのが、台湾の法曹界における女性の活躍度です。裁判官は 52.2%、検察官では 43.1%、弁護士の場合は 46% が女性であり、特に若い世代の女性比率が高いとのことでした。

日弁連からは、台湾の比率には及ばないものの、日弁連として、男女共同参画基本計画や、Legal 女子イベント等を通じて、共同参画への取り組みを進めていることなどを報告しました。



【記念品交換（尤・TWBA 理事長、淵上会長）】



【意見交換会（全景①）】



【意見交換会（淵上会長）】

参議院議員会館での意見交換会②：AI と法

後半では、AI と法をテーマとした意見交換を行いました。日弁連からは、松尾剛行弁護士が、TWBA からは汪家倩（ワンジアジン）律師（TWBA テクノロジー法委員会委員）が、AI が法曹分野に及ぼす影響や、法曹として今後 AI とどう付き合うべきか等について報告しました。

また、これを踏まえて、池内稚利弁護士がモデレーターとなり、活発な意見交換が行われました。

国会、最高裁判所の訪問見学

今回の TWBA の訪日に当たり、法務省への表敬訪問、国会見学、最高裁判所の訪問も行われました。

国会見学に関しては、正にその日、参議院本会議において共同親権に関する重

要な民法改正が可決、成立しました。残念ながら見学時には既に議事は終了していましたが、法律家にとって意義深い日に見学ができたと言えます。

最高裁判所では、大法廷などの見学に加えて、昨年弁護士から任官された宮川美津子裁判官との懇談も実施されました。同裁判官が任官して間もなかったこともあり、弁護士出身の最高裁判所裁判官の活動や女性法曹の活躍等も含めて活発に質疑が行われました。

今後の交流の意義

台湾は、半導体分野における世界的躍進を始め、近年目覚ましい発展を遂げています。さらに、例えば男女平等、LGBT の権利、言論・報道の自由などの点においては、日本よりもむしろ先進的な状況にあるともいえます。TWBA との交流は、多くの学びが得られる貴重な機会となりました。

今後も、TWBA との交流が続いていくことを願っています。



【意見交換会（集合写真）】